

## フランスの産業廃棄物・家庭ゴミリサイクル： 主要な原料源に

2008年7月31日ー今日、私たちは人類史上に類を見ないほど多くのゴミを排出している。その量は年間およそ31億トン。内訳は無害の産業廃棄物18億トン、一般廃棄物(家庭ゴミなど)12億トン、有害廃棄物1億トンを排出している<sup>1</sup>。

廃棄物のリサイクルは経済・環境の重要課題となっている。フランスは、長年にわたるあらゆる種類の廃棄物処理の経験から、リサイクルに応用できる重要な技術、有能な人材、評価の高い技術的知見を持ち合わせている。廃棄物の削減は環境グルネル会議法案が目指す主要な改革のひとつであり、この法案は2012年までに35%、2015年までに45%へと、リサイクル比率を高めることを目標に掲げている。

廃棄物の年間リサイクル量は、主に家庭ゴミ(2800万トン)、一般廃棄物(1400万トン)、産業廃棄物(9000万トン)の合計1億3200万トンで、農業および建設廃棄物(7億1700万トン)を含む廃棄物総量(8億4900万トン)のわずか16%にすぎない(フランス環境・エネルギー管理庁)。しかし、リサイクル産業には多くの利点がある。フランスでは、廃棄物から3870万トンの資源を取り出し、そこから3190万トンの原料を生成している。リサイクル産業における企業数は2400社で、3万1500人を雇用している。

エコ・アンバラージュ社は1992年に設立された分別リサイクル管理業の先駆けである。他には、特定の材料に特化したAliapur(ゴムタイヤ)、Valorplast(プラスチック、家庭用包装)、Ecopse(発泡スチロール)、Recyfilm(ラップ)、Ecofut(プラスチック容器)、Motus-Véolia(紙・書類)、Adivalor(農業廃棄物)などの組織があげられる。これらの企業は、資源ゴミ収集業者からの買い取り価格、リサイクル業者への販売価格を設定している。仏Aliapurのタイヤリサイクル部門における2007年度の売上高は推定6660万ユーロで、支出内訳は、52.10%(収集、輸送)、28.95%(はかり、粉碎機、保管)、11.14%(リサイクル)、7.81%(研究開発、事業構造)となっている。

対仏投資庁長官フィリップ・ファールブルは、次のように語っている。「リサイクル分野は急速に成長しており、海外投資家にとっても特に魅力的な産業です。対仏投資庁の調べでは、既に10にのぼる投資プロジェクト(エネルギー生産関連を除く)を確認しています。このうち4つは、外国企業によるものです：ヴェルダンのWellman France Recyclage社、コルマールのFreudenberg Politex社、サント・マリー・ラ・ブランシュのAmcor社(スペイン、La Seda社が買収)、ヌーシャトーのSorepla社(オランダ、Envipcoグループ)。またスペインのUrbaserグループも、その子会社であるメタン化工場建設世界大手Valorgaを通し、フランスで事業を行っています。」

### 対仏投資庁(略称 AFII)

フランスへの国際投資誘致、進出企業向け支援を担当する国の機関。フランス国内および北米、欧州、アジア各国におかれた在外事務所を結ぶネットワークで機能している。詳細情報はウェブサイトをご参照ください <http://www.investinfrance.org/Japan/> (AFII ホームページ)

詳細については、以下へお問い合わせ下さい。

在日フランス大使館 対仏投資庁 広報担当 ジェレミ・エルヴェ(Jérémy HERVÉ)

TEL : 03-5733-8208 (直通)

フランス大使館産業技術広報センター TEL : 03-3435-7455

<sup>1</sup> 出典: フランス 環境・エネルギー管理庁(ADEME)、経済協力開発機構(OECD)、およびユーロスタット2007(EU統計局)の研究に基づく2004年のデータ